

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2590200388		
法人名	株式会社 サンガジャパン		
事業所名	南ひこねグループホーム翔裕館		
所在地	彦根市平田町788		
自己評価作成日	令和3年8月16日	評価結果市町村受理日	令和3年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年9月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・アットホームな雰囲気でご利用者様お一人おひとりに寄り添い、生活そのものを支えるケアを実践しています。</li> <li>・ご利用者のニーズと意思を尊重し、「可能性の実現」と「生活の向上」に努めています。</li> <li>・いつもご利用者様に誠意をもって「質の高いサービス」が提供できるように自己研鑽に励み専門性の向上に努めています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開設2年目を迎える、住宅型有料老人ホームと訪問介護事業所を併設する1ユニットのグループホームです。近隣には、コンビニ・ドラッグストア・飲食店等があり、施設裏が住宅街となっている恵まれた環境です。コロナ禍の中で開設したこともあり、地域住民との交流の場となる、地域イベントや事業所行事も行えない中でも、認知症対応の啓発活動として、ショッピングモールへのポスター掲示を行い、QRコードで動画を見られるようにするなど、地域の一員としての活動が行われています。職員間のコミュニケーションも良好で、改善のアイデアなども、3人以上の賛同が得られれば即採用するといった、積極的な改善取り組みも行われています。有料老人ホームからグループホームへ入居される方もおられ、フロアをまたいでの人間関係が継続できるよう支援もしています。入居者の食の希望を聞き入れ、某有名牛丼チェーンを真似た衣装や食器を用意し、外食気分を味わえる取り組みも行われています。また趣味の楽器を継続されている方が、誕生日に演奏会を開くなど、一人ひとりの入居者の想いを大切にした支援が行われています。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="checkbox"/> 1. 毎日ある <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/> 1. 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2. 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての職員に理念研修を行い、職員クレド(行動指針)を職員に配布・携帯するように指導し朝礼にて感動介護憲章を唱和している。	法人の定める理念や職員クレド(行動指針)は、朝礼での唱和や小冊子の配布により周知されています。また、事業所では毎月の目標を定め、テーマに沿ったケアの提供ができるよう、管理者が中心となって進めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会費納入・回覧版・運営推進委員会開催地域イベントの参加(認知症の普及啓発)など交流している	自治会に加入し、回覧板により地域の情報を知ったり、施設チラシを回覧したりするなど、情報の相互交換に努めています。コロナ禍により地域行事や事業所行事も滞っている中、地域のショッピングモールで、認知症対応の情報発信ポスターを掲示(QRコードから動画が見られる)するなど、地域に貢献する活動を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の普及啓発に参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上委員会を設置し話し合いの場を設けている。	コロナ禍の影響により、対面での運営推進会議ができないため、2ヶ月に一度「活動状況報告書」により、役所・地域包括・家族に向けて運営の状況を報告しています。報告時に「ご意見シート」を同封することで、意見照会にもなっています。今後は、自治会や民生委員への配布も予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会を通じて取り組んでいる	「活動状況報告書」は地域包括への提出となっています。役所とはWEBを通じて連絡を取り合い、気軽に相談ができる関係になっています。地域部会が主催する事業者連絡会は、参加人数の制限から、可能な限り参加するようにしています。またオンラインでの地域ケア会議には積極的に参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針を作成し、年間研修計画に定められた研修を年2回、委員会活動を年4回実施しています。委員会活動の一環として、全職員を対象に身体拘束・虐待の「自己点検シート」による認識のチェックを実施し、職員一人ひとりが日頃のケアを振り返る機会になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会にて虐待についても話し合い取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は既知であり活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約に関する説明を行うと共に重要事項も再度ご説明し契約書と共に重要事項説明書もお渡ししている。解約の際も同様に十分説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置。家族・利用者様からの声が聴けるようにしている。運営などに反映している。	意見箱が活用されるまでには至っていませんが、面会時やおやつ・日用品の持参時に、忌憚のない意見を言ってもらえる関係作りができています。少なくとも月に一度以上は家族への連絡を欠かさないようにし、意見や要望を聴き取るようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常より職員とコミュニケーションを取り、面談も実施。意見を会議等で反映させている。	職員とは3ヶ月毎に面談(新人は毎月)を実施し、運営に関する意見やケアの在り方についての意見を聴き取るようにしています。また毎月のグループホーム会議でも意見を聴き、運営に活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課やキャリアパス等実施し取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設け研修を促している。また法人内研修においてGGプログラムを実施。職員のスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流する機会まではまだ図れていないが、同系列の事業所の訪問は行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査での聞き取り、契約時と本人からアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、面談時、契約時からご家族の意見を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複合施設の利点を活かし、様々なニーズに対応した支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを尊重し、傾聴し、寄り添う事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の介護を通して、ご家族様の状況や思いを把握し、出来る限り協力して頂き、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の状態・状況を把握し、必要に応じて面会を依頼したり、馴染みの物などを継続して使用して頂くなど努めている。	コロナ禍により、思うような活動ができない中でも、窓越しの面会には、馴染みのお寺さんや親戚が来られたり、個人所有の携帯電話で家族と連絡を取り合ったりするなど、これまでの関係性が途切れないよう支援しています。入居前からの趣味や習慣だった、新聞読みやハーモニカ演奏、万歩計での計測などを継続されている方もおり、一人ひとりの生活を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席など配慮させて頂き、入居者様同士関わり会えるよう努めている。またイベントなど行い交流の場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口で相談に来られ、契約に繋がらなくても、その後連絡させていただき、状況を把握、必要に応じて相談やアドバイスをを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的に関わりを持ち、会話や表情からご利用者様一人ひとりの意向や思いの把握に努めている。本人本位の視点を心がけている。	職員は、入居者本位の支援が提供できるよう、声掛けの統一・介助の統一を心掛けています。日頃の関りで聴き取ったことは介護記録に記載し、職員間で共有しています。	介護記録等への記載による、入居者の思いや希望の共有は行っているものの、一人ひとりの入居者にフォーカスしての情報の集約までには至っていません。センター方式の書式活用など、ケアに活かせる「その人の情報」の厚みを増やしていく更なる工夫が求められるところです。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際、ご本人・ご家族からアセスメントしている。また日々の関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らし方の背景や状況を把握し、関わりの中で現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が集まり会議を行い、ご利用者様の個々のケアについてモニタリングを行い、意見やアイデアを反映させている。	状態変化の際は、都度介護計画の見直しを行っていますが、基本的には短期目標の期間(6カ月)毎に見直しを行っています。毎月の会議で入居者の様子等の報告を受け、計画作成担当者により、毎月のモニタリングが行われています。医師の意見は、受診時や往診時のアドバイスを記録に残し、担当者会議録にも記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が会議を行った記録を共有し見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスの対応が多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・介護をタクシーを利用して		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による居宅療養管理指導にて月2回の往診24時間の連絡体制を整えている。	入居前のかかりつけ医の継続をされている方もおり、入居者や家族の想いを大切にしています。受診時は原則家族協力ですが、コロナ禍により職員が付き添っており、医療情報の把握に努めています。協力医による往診も月2回、希望者には歯科往診もできるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による連携の中、適切な往診・看護が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供・MSWとの連絡調整を随時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を書面にて提示。契約の際、説明を行いご理解頂いている。またご本人・ご家族の意向も伺っている。かかりつけ医との連携を密にし対応している。	「看取り介護に関する指針」の作成、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に同意を得ています。年に一度、看取りの研修は行っていますが、現在のところ積極的に看取りを行う体制にはありません。終末期ケアや急変時の対応に関する意向確認については今後の課題となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えておらず、今後改善していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。	コロナ禍の影響により、現在は消防署の協力が得られないことから、自主訓練として年2回の消防訓練(1回は夜間想定)を実施しています。飲食品を入居者3日分備蓄し、ランタンなども備えています。自家発電設備を有する他、大型蓄電池を導入し、停電時の対策にも力を入れています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	GG感動介護憲章に沿った介護を行うよう努めている。	年間研修計画にプライバシー保護の研修を定め、年1回の研修を実施しています。不適切な声掛けにならないよう声のトーンや表現に配慮しています。入居者が恥ずかしい思いをしないよう特に注意し、不適切なことがあった場合には、その都度注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で傾聴し、寄り添い本人の思いや希望を引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者様のペースに合わせて食事や入浴・レクリエーションなど支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など利用者様に選んでいただき、また提案させて頂いている。月1回の訪問理美容を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事を作り提供している。	3食とも湯煎式のクックチル食を採用しており、職員と一緒に、取り分けや洗い物を行っています。また、行事食として通常の食事を松花堂弁当の箱に盛り付けを行ったり、入居者の希望を聴き、カップ麺・牛丼・ハンバーガーなどを提供したりするなど、食が楽しめる工夫がなされています。混ぜる・盛り付けるなど簡単に参加できるおやつを手作りし、購入品だけに頼らないようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立作成。 水分摂取量の把握に努め、水分摂取の促し・提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。 歯科による居宅療養管理指導にて必要時、往診に来られる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	おむつを使用している方はおられず、夜間も吸収量の多いパッドを使用するなど、できる限りおむつを使用しない支援になるよう心掛けています。排泄パターンの把握に努め、一人ひとりのタイミングに合わせて、声掛け誘導によりトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、かかりつけ医・看護師と連携を取りコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね、入浴日を決めさせて頂き、本人の状況や体調に合わせて対応している。	週3回の入浴を基本とし、気分や体調を見ながら、臨機応変に入浴ができるよう支援しています。併設する住宅型有料老人ホームと共有している寝台浴も備えており、座位が保てず個浴が難しくなった場合でも入浴ができるよう、環境を整えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムを把握し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導にて管理 看護師による管理・指導。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中で、できる事を役割として行っただき、会話の中や表情から嗜好や希望を引き出すように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には実施できていないが、可能な限り行うように支援している。しばらくコロナ禍の為、実施できていない。	コロナ感染予防対策として、外出機会は減っているものの、敷地内での散歩や日光浴、また洗濯物干しや草むしり、芝のゴミ拾いなど、外気に当たる機会を作っています。2階にある住宅型ホームのバルコニーでの外気浴を楽しまれる機会もあります。	コロナ禍の影響によりやむを得ない事情だとは察しますが、感染症対策を講じた上で、近距離でもドライブ外出に出掛けるなど、入居者の気分転換を図るような外出機会を作られてはいいかでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側で管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	交換ノートを作成し家族と利用者様とのやり取りを支援している。電話連絡は施設の電話を利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの飾りや、家庭的な雰囲気づくりに努めている。	レクリエーションで作った季節ごとの作品を、リビングや居室の表札に飾り付け、少しでも季節感を感じてもらえるよう工夫しています。大きめの日めくりカレンダーを作り、日付を認識しやすくしています。玄関には次亜塩素酸水を噴霧し、午前・午後には定期的に換気を行うなど、感染予防対策も行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は行動制限はなく共有スペースは自由に使用し過ごして頂ける		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症についてご家族様に説明し、可能な限り、ご本人のなじみのある物を使用いただき支援している。	家族の集合写真を飾ったり、昔からの趣味の物を飾ったり、一人ひとりの入居者が、落ち着いて過ごせるよう工夫しています。二人掛けのソファや仏壇、楽器(ハーモニカ)を持ち込まれる方もいます。キャスター付きの椅子を持ち込まれる方もおられ、安全面に配慮しながらも、入居者の想いを大切にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリーにて安全を確保し自立した生活を支援している。		